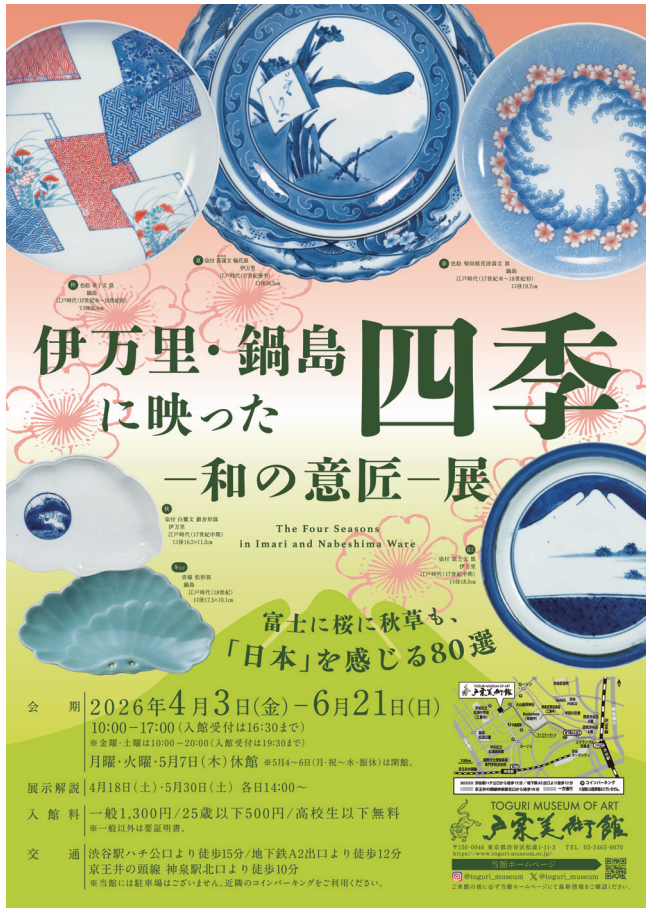


伊万里・鍋島に映った四季—和の意匠—展

The Four Seasons in Imari and Nabeshima Ware

富士に桜に秋草も、「日本」を感じる 80 選



17世紀初頭に誕生した伊万里焼と、17世紀後半に本格的な焼造が開始される鍋島焼では、絵付けや造形に工夫が凝らされ、様々な意匠が表現されました。中でも、四季を彩る木々や草花、雄大な自然は頻出のモチーフです。

伊万里焼や鍋島焼の意匠は中国の陶磁器や画譜などの影響を大いに受けていますが、日本で愛好され、発展した意匠も少なくありません。とくに、中国との貿易が停滞する17世紀後半は日本ならではの意匠の開拓が進みました。絵画や文学、ほかの陶磁器や染織品などといった工芸品、着物の図案集である小袖雛形本、18世紀以降に増加する和刻の画譜や絵手本類などとの接点が見られ、イメージ・ソースは多岐に及んだものとみられます。世界的な歴史の流れ、そして流行などが反映されながら、伊万里焼・鍋島焼の和様の意匠は深化していきました。

今回の展覧会では和様の意匠に着目し、館蔵の伊万里焼と鍋島焼を展示いたします。日本の四季や自然が美しく映し出された約80点をご堪能ください。

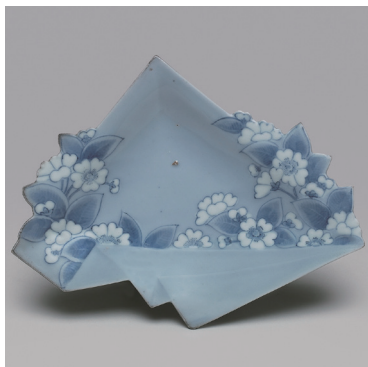
展覧会情報

- ◇ 名称：伊万里・鍋島に映った四季—和の意匠—展
- ◇ 会期：2026年4月3日(金)～6月21日(日)
- ◇ 開館時間：10:00～17:00(入館受付は16:30まで)
※金曜・土曜は10:00～20:00(入館受付は19:30まで)
- ◇ 休館日：月曜・火曜・5月7日(木)
※5月4～6日(月・祝～水・振休)は開館。
- ◇ 入館料：一般1,300円/25歳以下500円/高校生以下無料 ※一般以外是要証明書。
- ◇ 会場：戸栗美術館(東京都渋谷区松濤1-11-3)
- ◇ 交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩15分・地下鉄A2出口より徒歩12分
京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分
当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

◆ 第1章「伊万里焼に見る四季と自然」（第1展示室）

伊万里焼に見られる四季や自然の意匠を、17世紀後半の作例を中心にご紹介いたします。四季を巡りながら、伊万里焼の歴史的な展開や流行もご覧ください。

春
爛
漫



初出展

画像① うす り ゆう そめつけ さくらもん おりがみ がた さら 薄瑠璃釉染付 桜文 折紙形皿

伊万里
江戸時代（17世紀後半）
口径 17.3×13.5cm

花熨斗のように折紙で桜の折枝を包んだ、優美な意匠の変形小皿。青色の濃淡も繊細です。

夏
の
訪
れ



そめつけ あやめもん りん かざら 染付 菖蒲文 輪花皿

伊万里
江戸時代（17世紀後半）
口径 36.5cm

アヤメ科の花を主題とし、ほかにも平仮名を記した巻物や桜川など、日本的なモチーフが採用されています。

富士を
望む



画像② そめつけ ふじもん さら 染付 富士文 皿

伊万里
江戸時代（17世紀中期）
口径 18.5cm

日本の名峰・富士山は1650年代頃から伊万里焼に盛んに描かれるようになりました。本作では、絵画の流れを汲んで、頂上を3つに分ける三峰形（さんぼうがた）で描かれています。

秋
澄
む



画像③ いろ え あきくさもん かくびん 色絵 秋草文 角瓶

伊万里（柿右衛門様式）
江戸時代（17世紀後半）
高 23.2cm

胴部四面を使って、菊や萩、桔梗などの秋草と、雲間の月を描いています。余白の多い構図も風情があります。

冬
の
兆
し



そめつけ ゆきわもん びん 染付 雪輪文 瓶

伊万里
江戸時代（17世紀後半）
高 22.5cm

大小の雪輪文を散らした瓶。雪輪内には薄（すすき）や桔梗を描き、秋から冬への移ろいを感じさせます。

◆ 第2章「鍋島焼に見る四季と自然」（第2展示室）

鍋島焼にあらわされた意匠を、17世紀後半から18世紀にかけての作例を主体として、季節ごとにご紹介いたします。献上・贈答品として、高度に洗練された意匠をご覧ください。

惜しむ春



画像④ 色絵 柴垣桜花波濤文 皿

鍋島

江戸時代（17世紀末～18世紀初）
口径 19.7cm

波間に漂う桜花を青の濃淡と赤の線描で表現しています。円形の形状を生かした斬新な構図です。

夏を彩る



画像⑤ 色絵 水葵文 皿

鍋島

江戸時代（17世紀末～18世紀初）
口径 14.8cm

水葵と青海波が夏らしい皿。鍋島焼の植物文の描き方は、近い時期に刊行された絵手本と類似しています。

秋を綴る



色絵 草子文 皿

鍋島

江戸時代（17世紀末～18世紀初）
口径 20.4cm

草子を散らす構図は、着物の図案集にも見られます。2冊の表紙に秋草を描き、秋の気配を漂わせます。

春を待つ



画像⑥ 青磁 松形皿

鍋島

江戸時代（18世紀）
口径 17.5×10.1cm

松は中国では寒中に常緑を保つ高潔な植物。日本ではそのイメージを根底とし、めでたいものと好まれています。

伊万里焼と鍋島焼

伊万里焼とは、江戸時代初頭の佐賀で誕生した日本初の国産磁器です。佐賀・有田^{ありた}を中心とした地域で焼造され、国内外に流通しました。

鍋島焼は、伊万里焼の技術を基に創出され、佐賀鍋島藩から徳川将軍家への献上品、他の大名家・公家への贈答品などとして用いられました。17世紀後半に佐賀・伊万里^{おお}の大川内山^{かわちやま}に藩窯が築かれて製作が本格化し、17世紀末期から盛期を迎えました。

展覧会紹介文

- ◇ 日本の四季や自然が映し出された館蔵品約 80 点を展示。(25 字)
- ◇ 江戸時代の伊万里焼は意匠面で中国からの影響を受けましたが、日本独自の意匠も見られます。伊万里焼から展開した鍋島焼にも和様の意匠は採用されました。日本の四季や自然が反映された館蔵品約 80 点を展示します。(100 字)
- ◇ 江戸時代の伊万里焼と鍋島焼の意匠は、中国の陶磁器や画譜などからの影響を大いに受けていますが、日本で愛好され、発展した意匠も少なくありません。とくに、中国との貿易が停滞する 17 世紀後半には日本ならではの意匠の開拓が進みました。絵画や文学、ほかの陶磁器や染織品などといった工芸品、着物の図案集である小袖雛形本、18 世紀以降に増加する和刻の画譜や絵手本類などとの接点が見られ、イメージ・ソースは多岐に及んだとみられます。日本の四季や自然が美しく映し出された館蔵の伊万里焼と鍋島焼、約 80 点をご紹介します。(249 字)

会期中の催し物

- ◇ 展示解説
 - ☐ 4 月 18 日 (土)・5 月 30 日 (土) 各日 14:00 ～ (約 45 分)
 - ☐ 参加費無料 (要入館券) ☐ 予約不要
 - ◇ ラウンジ & ギャラリー・トーク
 - ☐ 「伊万里焼・鍋島焼に見る和様の意匠」(講師：当館学芸員)
 - ☐ 4 月 27 日 (月) 14:00 ～ (約 120 分／要予約・有料)
- ※当日はご予約の方のみご入館いただけます。
- ※詳細は当館ホームページをご覧ください。

同時開催

- ◇ 『江戸時代の伊万里焼—誕生からの変遷—』(第 3 展示室)
- ◇ 『令和の鍋島焼 阪井茂治・くらら作品展』(やきもの展示室)

次回展予告

酒がおいしい古伊万里展 2026 年 7 月 3 日 (金)～9 月 21 日 (月・祝)



染付 龍文 水注

伊万里
江戸時代 (17 世紀前期)
高 14.7cm

お問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館 広報担当 宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3

TEL : 03-3465-0070 FAX : 03-3467-9813 E-mail : kouhou@toguri-museum.or.jp

公式サイト : <https://www.toguri-museum.or.jp/>